

宇都宮市立宝木小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分によいところはありますか」という設問に対する肯定割合は、全国平均より2.2ポイント高い。新型コロナウイルス感染症予防等で行事や活動の制限はあったが、限られた活動の中でも自分のよさを実感できる機会があり、自己肯定感をもてていることが分かる。今後も、活動を通して自分のよさや成長を実感できるよう、自己や他者評価を取り入れたり、認め合う機会を設けたりしていきたい。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という設問に対する肯定割合は、全国平均より14.5ポイント高い。学習や生活の場面で多様に意見を聞いたり、話したりする機会を設けることで、異なる意見を否定せず受け入れたり、そこから学んだりする態度が身に付いている成果と考えられる。今後も多様な考えに触れる機会を設け、互いに学び合うことを楽しめる学習集団を育成していきたい。

○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」という設問に対する肯定割合は、全国平均より4.3ポイント高い。新型コロナウイルス感染症予防のため友達との活動に制限があったからこそ、友達とともに活動することに対して楽しさや大切さを感じることができたと考えられる。今後も友達と協力する活動を取り入れ、共に学ぶことのよさを実感させていきたい。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に進んで取り組んでいますか」という設問に対する肯定割合は、全国平均より13.4ポイント高い。探究的な学習を好む児童が多いだけでなく、繰り返し学習することで調べ方やまとめ方が身に付き、学習の楽しさが感じられるようになったと考えられる。今後も児童の課題意識を大切にしながら学習を進め、主体的に学ぶ態度の育成に努めたい。

●「普段1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」という設問に対して、4時間以上と回答した児童の割合は、22.7%で全国平均より7.2ポイント高く、ゲームの時間が長い児童が多いことが分かる。タブレットも配付され、インターネットなどへの関心も高いと思われるが、1日4時間以上はかなり長い結果となっている。学校でも、ルールを決めることの大切さを学級活動などで伝えるとともに、家庭への協力を呼びかけていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」では、1時間以上学習時間を確保している児童が、全国平均より8.9ポイント低い。学習内容の確実な定着を目指すためには、家庭での学習時間の確保が必要である。今後は、家庭学習の必要性を児童だけでなく、学年だより等で保護者に周知することで家庭にも協力してもらい、家庭で学習する習慣を身に付けさせていきたい。

●「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間読書していますか」の設問に対して、30分以上と回答した児童の割合は、全国平均より13.8ポイント低い。全く読まない児童が37.3%おり、全国平均より13.3ポイント多い。このことから読書離れが進んでいることが分かる。読んでいる児童と読まない児童の二極化も進んでいることから、定期的に本を読む機会を朝の読書や宿題で設け、読書習慣を身に付け、国語や算数の文章問題など読解力が必要な学習の基礎を定着させていきたい。

●「新聞を読んでいますか」の設問の肯定割合は、全国平均より4.8ポイント低く、全く読まない児童は73.6%いる。インターネットなどの普及により、活字離れが進んでいるためと考えられるが、視野を広げたり、様々な意見や内容に触れられたりするという点からも、新聞を読む機会を学校の教育活動の中にも設けていく必要があると考える。国語や社会などの学習において新聞を取り入れ、様々な情報メディアのよさを感じられるようにしていきたい。

宇都宮市立宝木小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力や問題発見・解決能力などの学習の基盤となる資質・能力を育成する。	教科横断的な視点で、カリキュラム・マネジメントの充実に努める。	「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に進んで取り組んでいますか」という設問に対する肯定割合は全国平均より13.4ポイント高いことから、カリキュラムマネジメントの作成と活用により、探究型の学習が定着し、学習の基盤となる資質・能力が少しずつ育成できていると考えられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭学習の習慣を段階的に身に付けさせる。	授業で学んだことを活用できるよう、宿題の出し方を工夫するとともに、環境整備に合わせてタブレットを活用する。	「家庭学習時間が少ない」「ゲーム時間が長い」という課題が見られることから、ノートやドリルだけでなく、タブレット学習や調べ学習なども取り入れた宿題を出し、楽しく学習が進められるよう工夫していきたい。また、家庭科の学習と関連させ、生活時間をマネジメントできるよう、自分の生活時間を見直す機会を定期的に設けていきたい。